

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	住居論 (Theory of the dwelling)		
ナンバリングコード	L20403	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 建築計画
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	必修		
授業コード	L040351	クラス名	-
担当教員名	西村 謙司		
履修上の注意、履修条件	建築設計を志している人は必ず履修すること。建築を学ぶ意欲があることが履修条件です。講義の内容をその時間内に理解するよう心がけること。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるため厳禁です。目と手だけで受講するのではなく、目と手と耳、その他の感性を縦横に発揮して受講して下さい。		
教科書	教科書は用いず、毎回、配布する資料をもとに授業を進めます。		
参考文献及び指定図書	適宜紹介します。		
関連科目	建築計画、設計製図、日本建築史		

○授業の目的・概要等	
授業の目的	人間にとって、住居はなくてはならないものです。この授業では、「建築」が心ある人間にとってかけがえのない存在であり、住まいの構築とともに人間の営みが形成されているといった観点から、住居建築の重要性と可能性に関心を持つことができるようになるための授業を行います。受講によって、「建築」の人間学的意義や人生において「住む」ことを考えることの重要性、そして、住宅設計の多様な可能性についての展望をつかむことができることを目的とした授業を行います。また、住宅の歴史に関する基本的知識を習得するとともに、それらを体系的に理解し、表現できるようになることをめざします。加えて、自ら経験した住宅を第三者に表現できる能力を養います。そのうえで、自らの拠り所となる「住まい」について考え、その思考を踏まえて創造的に構築された理想的な住宅のあり方を見出し、その内容を第三者に表現できる能力を修得することを目的とします。
授業の概要	住宅の歴史と計画のあり方に関して講義を行います。世界の住宅事例を見ていくなかで、豊かな暮らしを支える住居のあり方について講義を行います。また、時系列に沿って日本の住宅の歴史的背景について解説します。特に現代住宅に関しては、その成立構造を機能・空間・造形に着眼して説明します。講義は多数の建築写真、建築図面を用いて、ビジュアルに行います。各自の設計手法確立の一助となることを期待します。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 該当なし
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	配布プリントはワークシート形式になっています。授業中に示された内容に沿ってブランクに適切な用語を記してください。それによって専門用語を習得します。		10点	10点
【知識・理解】	日本の住宅の歴史を体系的に理解する。住宅の居室の特徴に関して理解する。		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	自らの住居を検討し、図面にて表現する。自らの図面と一般的な住居平面の歴史的変遷との比較から、自らの住居の位置づけを知る。		30点	
【思考・判断・創造】	住居の成立構造を機能・空間・造形に着眼して体系的に理解する。最も関心のある住宅建築に関して、機能・空間・造形・歴史的な観点から解説し、その独自性を表現できる。		30点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
<p><成績評価のポイント></p> <p>1. 授業への取組姿勢 2. 授業の予習・復習の内容 3. 毎回の授業のワークシートの成果 4. 提出レポート(A2)</p> <p><成績評価のための提出物></p> <p>1. 毎回の授業の予習・復習の成果をコピーし、整理し、表紙をつけ、一部に綴じてまとめ、16回目の授業に<4号館3階技術員室>に提出。</p> <p>2. 毎回の授業のワークシートの完成版をコピーし、整理し、表紙をつけ、一部に綴じてまとめ、16回目の授業時に<4号館3階技術員室>に提出。</p> <p>3. 年明け1回目の授業時に「各自の自宅の平面図と生活状況」を図と言葉で記したもの(A2サイズ)を提出。</p> <p>4. 「自ら最も関心のある住居建築」について、<絵と図と言葉>でまとめ、一枚の紙に表現し(A2サイズ)提出。</p> <p>年明け1回目の授業時に提出。(<絵と図と言葉>の図は、平面図・立面図・断面図を指す。また、コンセプトダイアグラムを描くこと。絵は、建築物の外観・内観を描く。言葉は、設計者と建築物名を含む設計概要。建築物の意匠、計画、構造、設備的観点からの分析。ユーザー目線で見た建築物の魅力や自らの言葉で記すこと。後者二点が評価の重要項目。)</p> <p>・提出物は確認後、返却します。</p>

○その他
<p>・提出物に名前の記載が無い場合、成績評価ができません。提出前に、必ず、<名前の記載確認>をすること。</p> <p>・A2サイズの提出物に関しては、裏面右下に学籍番号と名前を記載すること。</p> <p>・授業の予習復習の成果およびワークシートの完成版は、コピーしたものに表紙をつけて提出するが、その表紙に学籍番号と名前を記載すること。</p> <p>フィードバックは、適宜行います。</p>

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名：住居論 (Theory of the dwelling) 担当教員：西村 謙司	授業コード：L040351
学修内容		
1. 住居論概要		
住居論に関するオリエンテーションを行います。また、現代住宅の制作プロセスに関する動画を見ながら、現代住宅の計画段階における問題や課題について学びます。動画を見た上で、住宅設計に関する課題を確認するレポートを作成します。		
予習：図書館に行き、現代住宅に関する書籍を探し、借りて読むこと。		(約2.0h)
復習：予習の段階で借りた書籍の重要な点を文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
2. 世界の住居 1		
自然条件に対応する住宅の形態、住宅の形態を変化させる要因、風土的な建築などについて解説します。また、日本の住宅の特徴を簡単に説明します。		
予習：自然と住宅の関係に関して、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習の段階で調べた「自然と住宅の関係」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
3. 世界の住居 2		
自然条件に対応する住居の形態、住宅の形態を変化させる要因、風土的な建築などについて解説します。特に各地域の自然と建築材料と建築工法の関係について説明します。また、世界の住居のうち、東アジアの住宅を事例としてその内容を解説します。		
予習：産業革命が起きる以前の建築工法の具体的な方法を類型的に調べること。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「自然と建築材料と建築工法の関係」を整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
4. 世界の住居 3		
自然の風土との関係をふまえ、世界の住居建築のうち、東アジア(韓国、中国、モンゴル、台湾)の住宅を事例として、その内容を解説します。		
予習：東アジアの住宅に関して、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「東アジアの住宅の特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
5. 世界の住居 4		
自然の風土との関係をふまえ、世界の住居建築のうち、東南アジア(インドネシア、タイ)の住宅を事例として、その内容を解説します。		
予習：東南アジアの住宅に関して、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「東南アジアの住宅の特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
6. 日本の住居史 1		
日本の住居の変遷過程を学びます。生活様式と住宅の平面の関係に関して解説します。特に、古代の住宅の特徴について解説します。「寝殿造住宅」という建築様式の特徴を説明します。		
予習：日本古代の住宅に関して、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「日本古代の住宅の特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
7. 日本の住居史 2		
日本の住居の変遷過程を学びます。生活様式と住宅の平面の関係に関して解説します。特に、中世の住宅の特徴について解説します。「書院造住宅」という建築様式の特徴を説明します。		
予習：日本中世の住宅に関して、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「日本中世の住宅の特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
8. 日本の近代住居		
日本における近世の住宅と明治維新以後の近代住宅について解説します。江戸時代の身分制度と住宅様式の関係性や明治維新以後の日本住宅の変遷について解説します。		
予習：日本の近世・近代の住宅に関して、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「日本の近世・近代の住宅の特徴」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)

○授業計画	科目名：住居論 (Theory of the dwelling) 担当教員：西村 謙司	授業コード：L040351
学修内容		
9. 住居・住宅の目的		
慣習的に継承されてきた近世以前の住宅のあり方に対して、自由・平等な社会における住宅のあり方は、多くの可能性に開かれていきます。そのことをふまえ、再度、我々の生活の基盤となる住居・住宅の目的について再考します。		
予習：「住居・住宅の目的」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「住居・住宅の目的」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
10. 戦後の住居史		
戦後から現代に至る日本の住居史について説明します。特に、LDKプラン、生活と住宅の平面計画の関係、起居様式と住宅のあり方をテーマとして、戦後住宅の変遷プロセスを見ていきます。		
予習：「LDKプラン」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「LDKプラン」の考え方と課題について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
11. 住宅の類型		
現代住宅の類型に関して解説します。現代住宅の体系的理解を目指します。特に、戸建住宅と集合住宅の相違点と両者の特徴、問題点や課題、今後の可能性に関して解説します。		
予習：「戸建住宅と集合住宅」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「戸建住宅・集合住宅」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
12. 住宅設計プロセスと住空間調査		
住宅設計のプロセスと住空間調査のあり方に関して説明します。基本計画・基本設計・実施設計・施工というプロセスの中で建築家の果たす役割と住宅設計に関わる際のポイントについて、解説します。住宅設計のプロセスの理解を通して、住宅設計活動のあり方を総合的に確認するとともに、今度の各自の課題について考えることを問題とします。		
予習：「住宅設計のプロセス」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「住宅設計のプロセス」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
13. 住宅の構成と住宅設計手法		
住宅の内部空間構成に関して解説します。特に、住宅の機能的観点から、住宅のパブリックスペース・プライベートスペース・サービススペースという空間構成について解説します。また、ゾーニング、動線計画、平面計画、断面計画など、住宅設計を行う際の重要な手法に関して解説します。		
予習：「住宅設計手法」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「住宅設計手法」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
14. 各室の計画		
住宅の居室の理想的なあり方に関して解説します。特に、リビング、ダイニング、キッチン、寝室など、住宅を構成する諸室を問題とし、個々の部屋を設計する際の問題と課題について解説します。		
予習：「住宅を構成する居室」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「住宅を構成する居室」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
15. 住宅と家族生活		
住宅と家族の関係性とライフプランに関して解説します。ライフスタイル、ライフサイクル、ライフステージについて解説するとともに、住宅とライフの関係性の意義について説明します。		
予習：「住宅とライフ」について、あらゆるメディアを通して調査を行うこと。		(約2.0h)
復習：予習と授業をふまえ、「住宅とライフ」について、整理し、文章にて箇条書きに記すこと。		(約2.0h)
16. 課題提出		
授業の予習・復習の成果をまとめたもののコピー(表紙付・表紙に主題と各自の学籍番号・名前を記載)、授業中に配布したワークシートを完成させたもののコピーをまとめたもの(表紙付・表紙に主題と各自の学籍番号・名前を記載)を、<4号館3階技術員室>に提出。		
予習：		
復習：		